

幼子とともに

2024 年度 4月号

はじめに

お子様のご入園、ご進級、心よりお慶び申し上げます。そして、2024 年度もまた、どうぞ、よろしくお願い申し上げます。神様の祝福が豊かにありますように、心よりお祈りしています！！

子どもたちもまた、様々な思いの中で、今年度をスタートさせていることでしょう。その中には、心が不安でいっぱいのお子様もいるかもしれません。そのような子どもたちの思いに寄り添いつつ、子どもたちが、少しでも早く、幼稚園に安心して通えますよう、教師一同、子どもたちとの信頼関係の構築に尽力してまいります。

初めの内は、母子分離が難しい場面も多くみられるかもしれませんが、お母さんから離れたくないは、お母さん大好きサインであり、お母さんから容易に離れていくのは、お母さんを信頼しているサインでもあります。どちらも、子どもたちにとっては、とても大切な今の姿ですから、そのままをまず受け止めつつ、幼稚園が子どもたちにとって、安心できる居場所であれるように、つとめて参りたいと思います。

遊びから社会へ

ある日の春休み中のオリブさん。この日は、雨のため、全員がホールで遊びました。ボールで遊ぶ子もいれば、積み木に乗って遊ぶ子もいます。料理を作ったり、並べたりして、おままごとをする子もいれば、ピアノの下でパーベキュー？をしている子もいます。色々な遊びがありますが、そこでは、子どもたちの独自の世界が広がっています。保育者もまた、その世界に入れてもらい、子どもの視点にたって、遊びをフォローしていきます。このようにして、子どもたちは、安心して、遊びに没頭することができるとともに、社会で大切なことを自然に身に付けていきます。

ある子は、鍋をかき混ぜ、ある子は食べ物を焼き、ある子は食材を切り、ある子は食べます。別々のことをしていても、同じ一つの遊びを共有しています。自分で役割を見つける子もいれば、お友達にお願いをして、役割を任せる姿もあります。これって、もはや一つの社会ですよな(▽)/この遊びは、保育者がさせている遊びではなく、子どもたちから自然に始まった遊びです。遊びを通して、主体的に、かつ自然的に、社会のあれこれが身に付けられるとは、正に、こういう状態なのだと考えさせられました。やはり、遊びは重要なですね(▽)/



絵本「おかあさんだいすき」

これは、園生活説明会でもご紹介した絵本です。「おかあさんだいすき」という子どもの言葉から始まり、あるいつもと変わらない一日の話です。日常的な親の言葉かけと子どもが本来求めている言葉かけが、交互に展開していく単純なストーリーです。

この物語の大切な部分は、こうしてくれたら「もっと大好き」という子どもの思いです。つまり、現実では、叱られてばかりだけれど、お母さんが好きだということは変らないわけです。この大好きな気持ちに気づいて、こう言ってくれたら、もっと好きになるのだ、という子どもの思いがよく表現されています。子どもにとって、この絵本は、自分の思いを代弁してもらっているという安心感が、親にとっては、自分が子どもから愛されているのだ、という気づきを得られる絵本であると言えるかもしれません。

親や保育者は、自分たちが子どもに対して愛を注がなければいけないのだと、考えることがほとんどです。その一生懸命な気持ちが、焦りやプレッシャーになってしまうこともあり、上手くできないと、自分を責めなくなってしまうものです。

けれど、子どもたちは、親が、自分に対して、どのような関わりをしていても、親を愛しています。それは変わりません。なぜなら、親がいなければ、自分たちが生きられないことを、子どもたち自身が、よく知ってい

るからです。つまり、親の行為ではなく、親の存在そのものを、彼らは必要とし、愛しているのです。この子どもたちの、私達に向けられた無条件の愛を知ることが出来たならば、日々の子育てにも、より多くの光があてられていくのではないかと思います。私が子どもを愛する、という視点も大切ですが、私が子どもから愛されているのだという視点もまた、とても大切なことなのです。

勿論、子どもたちは、親の都合を考えませんから、親のしてほしいことを、とんでもないタイミングでしたりするものです(笑)。あるいは、これワザとやろ！って言いたくなるようなこともしたりするものです。けれど、それは、親が嫌いだからしているわけではないのです。それはもしかすると、「私の愛に気づいてね」という子どもなりのメッセージなのかもしれません(▽)

素敵な絵画の献品

教会創立 130 周年（実際は 136 年目？）を記念して、新進気鋭のクリスチャン画家、井上直（いのうえなお）氏の絵が献品されました。テーマは、「礼拝」です。教会の歴史は、礼拝の歴史であり、この礼拝に沢山の人が集い、今、私も招かれています。この教会の歴史は、もしかすると、不完全な歩みであったかもしれないけれど、変わることなく、礼拝が守られ、その中心には十字架が立ち続けている。そういう思いを一枚の絵に込めて頂きました。礼拝堂に行くまでの階段の踊り場に飾っています。よかったら是非、ご鑑賞いただければと思います。また、2025 年夏（恐らく夏）に、井上直氏の個展を、越谷教会礼拝堂で計画をしています。絵画を通してではありますが、聖書のこと、教会のこと、キリスト教のことを、少しでも味わっていただければ幸いです。



Instagram はじめました



この度、細々とではありますが、越谷幼稚園の公式インスタを始めました。まだまだ、運用方法については、議論も必要ではありますが、幼稚園の様子を、少しでも伝えられればと願っています。勿論、個人情報の取り扱いには、十分に、注意を払いながら進めて参りたいと思っています。ぜひ、幼稚園のホームページからみられるものと同様に、閲覧いただければと願っています。

園長 須賀 工

栄養士だより

《デザートあるよ！は魔法の呪文》

ご入園、ご進級おめでとうございます。子どもたちと楽しくおいしく食べることのお手伝いをさせて頂きたいと思っております。疑問点や困っていることなどありましたら、一緒に考えていきたいと願っております。どうぞよろしくお願いいたします。

遥か以前、わが子が幼かったころ、毎夕食後にデザートを用意していました。でもそのデザートとは、市販品のお菓子であったりゼリーであったり、そして時間があれば手作りしたりと、要するに” 食事後に楽しみがある ”ということをお忘れませんでした。

好き嫌いしないでバランスよく何でも喜んで食べてほしいと願いつつも、決して無理強いはいしないで、一緒に食べることが嬉しいと感じてもらえるにはどうしたらいいの、を共に考えていきましょう。手作りデザート例＊100%果汁ジュースでゼリー（大きじ1(15g)の水に小さじ1(5g)ゼラチンをふやかし、温めた200gのジュースに加え、煮溶かして容器に注ぎ入れ、冷やし固める。そのままでもいいですし、さらに、トッピングに市販のパニラアイスのをせたり、黄桃などのフルーツ缶をミキサーでトロトロにしてのせるなどするとおいしくなりますよ。

栄養士 いけだ かずみ